令和４年度（2022 年度）学校評価

学校園名	宝塚市立　長尾　幼稚園

１　学校教育目標

心も体も健やかな子どもの育成

２　重点目標

○　安全、安心な幼稚園づくり　○　生命の尊さを大切にする幼稚園づくり　○活性化する幼稚園づくり
○　親子で育つ幼稚園づくり　○　評価、改善のある幼稚園づくり

３　学校自己評価結果（A　優れている　B　良い　C　おおむね良好　D　要改善）

領域	評価の観点及び評価項目		達成状況	幼稚園の取組状況・改善の方策	４ 評価項目ごとの学校関係者評価
園運営	開かれた幼稚園づくり	○　保護者や地域の方の教育力を活用し、つながりを大切にしながら、幼児の生活体験がより豊かに広がる工夫 ○　家庭や地域への情報発信	A	○　PTA 役員の方々と協力して PTCA 活動支援事業に取り組み「交通安全教室」「ほっこりパパママと遊ぼう」「ふれあいコンサート」「防災教室」を開催し、園･保護者･地域･行政が手を携え園児たちに人とふれあう喜びや学びの推進につなげていくことができた。 ○　１年を通して感染状況を見ながら PTA 役員・保護者ボランティアによる図書の貸出し、保護者サークル「おはなしトトロ」、「ほっこりパパ」を定期的に実施することができ、園児と保護者のつながりを深めたり、園児の体験の幅を広げたりすることができた。 ○　PTA 役員と園で連携し、行政にも協力いただいて食育フェアを開催したり、保護者サークル「おはなしトトロ」とも連携して園児たちへ人権絵本の読み聞かせを実施したりすることができた。 ○　１年を通して写真とコメント入りのドキュメンテーションやほぼ毎日のホームページの更新、行事の参観やバースデートークなどを通して子どもたちに園の様子をお知らせするように努めた。	○　行動制限の規制が緩やかになり、園児たちが様々な人とかかわることができた。園児たちの笑顔を見て、保護者としての喜びもひとしおであった。また、保護者自身も子どもたちとかかわることが嬉しく温かい心もちになった。子どもたちの喜びだけでなく、保護者の充実感にもつながっている。 ○　園児たちのために幼稚園・保護者・地域・行政の方々が協力して活動できたことが素晴らしいと思った。 ○　ホームページは毎日楽しみにしている保護者が多い。子どもから直接聞く話とホームページの内容で更に幼稚園での様子がよく分かった。 ○　写真や説明付きの大判の掲示物を貼り出して、園児たちの様子や育ちが保護者に伝わるように努めていた。 ○　今後も教師の無理のない範囲で、様々な方法で園児たちの様子や育ちを発信していくとよい。
	危機管理体制の整備	○　危機管理マニュアルに沿った実効性の高い訓練を実施 ○　コロナ禍における健康安全な生活の工夫	A	○　安全･防災マニュアルに基づき全職員で共通理解を図りながら、様々な想定で（大雨時、土砂災害発生時、地震・火災発生時、園内外不審者侵入時）避難訓練を定期的に実施した。 ○　PTCA 事業として、行政や地域の方々にお世話になり「交通安全教室」「防災教室」を開催することができた。 ○　保健衛生では毎週水曜日の野菜デーの実施、発達段階に応じた手洗い･うがい指導等、各種保健指導に努めた。	○　年間を通して、いろいろな想定で、その時期の園児たちの育ちに沿いながら、定期的に避難訓練を積み重ねているところがよい。 ○　今年度はPTA と連携して「交通安全教室」「防災教室」を開催し命の大切さについて考え合えたことはとてもよかった。 ○　家庭でも避難訓練があることを子どもが前日から話してくれたり、訓練後は内容も詳しく教えてくれたりして、実際に訓練を行うことで子どもたちの身についてきていることが分かる。 ○　野菜デーは、野菜嫌いを克服できるよい機会となっており、親も嬉しく思っている。

	子育て支援の充実	○　家庭の教育力向上をめざし、「親育ちの場」としての機能の充実 ○　地域の未就園児親子の育ちを支援するための保育の場を提供	B	○　運動会や秋フェスタ、生活発表会等の行事やドキュメンテーションの掲示、お便り、個人懇談、ホームページなどで、個や集団の育ちについて発信したり保護者と共に考えたりすることができた。 ○　感染対策を講じながら（予約制、少人数制、２部制）、未就園児親子遊び教室や園庭開放を実施することができた。講師先生を招聘し、未就園児親子と在園児の合同参加で楽しむことができた。今後も安心できる遊びの場、人と触れ合える場の提供に努める。 ○　在園児対象の園庭開放を少しずつ再開することができた。感染対策を講じながら今後も場の提供に努めたい。	○　コロナ禍で感染対策を講じながらも、保護者が参観・参加できる行事が多くあり、子どもの育ちを直接感じ取ることができたことがよかった。 ○　未就園児親子遊びの会に在園児３歳児がかかわっていることがよかった。在園児はお兄さんお姉さんの気持ちを味わい、思いやりの気持ちにつながっている。未就園児はお兄さんお姉さんの優しさを感じ、安心感や憧れにつながっている。未就園児の保護者は在園児に未来の我が子象を見出すことができる。
	教職員の資質向上	○　教職員一人一人が課題意識をもち、組織力を高めながら学び合う ○　深い幼児理解 ○　保育カンファレンスの充実	B	○　学級ごとに短時間で日常的に保育カンファレンスを実施することに努めた。今後も今日の保育の振り返りと明日の保育の見通しを明確にし連携して保育にあたる。 ○　なかよし会でのサンタクロースとの出会い等、ICT 機器を利用したオンラインでのコミュニケーションを楽しめる工夫を図った。今後も子どもたちの夢を広げたり探求心を満たしたりしていけるような ICT の活用に努める。	○　実践記録を作成したり、教職員による保育カンファレンスを大切にしたりして、一人一人の子どもの内面理解に努めていることは、とても評価できる。今後も子どもの心に寄り添いながら保育にあたる姿勢を大切にしてほしい。 ○　ICT 機器を上手く保育に取り入れ園児たちの夢や想像力につなげていたことがよかった。
教育課程	幼児期に、ふさわしい生活の展開	○　保育の基礎・基本を大切にし、遊びを通した幼児期にふさわしい保育内容の工夫 ○　３・４・５歳児の発達年齢に即した主体的に学ぶ力や人とつながる力の育成	A	○　体力づくりの一環として３学年ともリズムジャンプを取り入れ、毎朝、登園後すぐに活動することを習慣づけることで、自主的に身支度をする態度や体や脳の活性化につなげていくよう努めた。引き続き、基本的生活習慣、自主性や意欲、聞く力・話す力、他者と関わる力を遊びや生活の中で育んでいけるように努める。 ○　３・４・５歳児の縦のつながりを大切にした保育内容の実践に努め、憧れや思いやりの気持ちにつながるよう努めた。	○　今後も戸外遊びや体を動かす遊びを存分に取り入れながら、子どもたちの自主性や体力向上に引き続き努めていってほしい。 ○　教職員みんなで気持ちのよい挨拶の奨励に努めていると感じる。 ○　今年度は各学年 1 クラスになったが、その分、今まで以上に学年を超えて縦のつながりをもちながら園生活が展開されていたのがよかった。
	校種間の連携	○　連携の意義を明確にした交流や教職員間の協議の機会の充実	B	○　長尾中学校、山手台中学校ブロックの管理職の連携協議会を定期的にもち情報交換を行うことができた。 ○　今年度も長尾小学校の体育館を借りて近隣の幼保交流「プレ１年生」を開催できた。同じ１年生になる５歳児が半日楽しいふれあいの時間を過ごすことができ、小学校への期待や親しみにつながった。 ○　小学校への学校見学やトライやるウィーク、また近隣小学校からの栄養教諭、英語科教諭による出前授業を開催し、小学校への期待や小中学校の先生やお兄さんお姉さんへの親しみや憧れの気持ちにつながっている。	○　トライやるウィークが３年ぶりに実施され、幼稚園児も中学生も互いに人とかかわるよい経験につながっていると感じる。 ○　プレ１年生や出前授業、学校見学などは、近隣の学校園や園児・児童・生徒・先生に関心をもち、就学への憧れや身近な世界を広げたりすることにつながっていると感じる。今後も地域の学校園と連携を取りながら継続していくとよい。

課題教育	人権教育の推進	○　幼児期にふさわしい人権意識の育成 ○　教師自身の人権意識の向上	B	○　日常の何気ない遊びや生活の中で起こる問題に（言葉の暴力、決めつけ、いじめ等）まず教師が気付き、子ども自身が振り返り考えられるような支援に努めた。また、そのことをカンファレンスで伝え合い日々の保育に生かせるように努めた。 ○　プレ１年生の職員研修ではＬＧＢＴについて講話を聞き、実際の事例から学び合うことができた。 ○　山手台中学校・中山五月台中学校ブロックの人権研修会は、全職員が学び合える機会となった。更に子どもたちの実態を共有して幼小中が一貫して取り組んでいく。	○　その時々に起こった出来事をタイムリーに取り上げて、子どもに分かるように伝えたり、考えさせたりして丁寧に指導されていると感じる。 ○　今年度は特に幼稚園とＰＴＡの研修担当者や保護者サークルがコラボで人権絵本の選定や園児への人権絵本の読み聞かせを実施し、園と保護者で人権教育に取り組むことができたことがよかった。 ○　教師も様々な人権研修に参加したり企画したりして資質向上に努めている。
	特別支援教育の推進	○　個別の教育支援計画・指導計画に基づいた幼児の発達に即した支援内容の工夫	A	○　特別支援教育園内委員会で支援を要する子どもたちの実態について共通理解し、具体的な目標や手立てについて協議し、共有することができた。 ○　園内研究会を実施し、公開保育を通して、ふさわしい援助のあり方ついて協議し学び合うことができた。 ○　療育施設と連携し、訪問指導の機会を捉えて情報共有をしたり、ふさわしい支援について協議したりすることができた。 ○　今後も園内研究会の実施や研修会に積極的に参加し、専門的な知識を学び個に応じた具体的な援助につないでいく。	○　個々の育ちに合わせた指導計画を作成し、定期的な話し合いをして子ども一人一人の育ちに応じた丁寧な支援をしている。 ○　園と保護者、関連機関がつながりをもちながら、よりより支援を考えてくれているところが評価できる。

5　学校評価の実施方法についての学校関係者評価

行事ごとのアンケートや年度末の保護者評価などを丁寧に実施している。幼稚園の自己評価を基にして、学校関係者評価委員会で協議するという適切な方法で、実施できている。また、保護者からの意見に真摯に向き合って回答されており、その姿勢が保護者の信頼や理解につながっていると感じる。

6　総合的な学校関係者評価

人の行動規制が緩やかになったことやPTCA活動支援事業の実施園であったことも活かしながら、園児たちのために、幼稚園・保護者・地域・行政の方々が協力して様々な活動ができたことが素晴らしく、今年度の一番の成果である。

日々の様子やアンケート集計結果などから、園児が健やかに成長し順調に園運営が進んでいると感じる。特に子どもたちの自主性を重んじた教育内容や自然とのふれあい、人とのかかわりが直接体験を大切にしながら推進されているところが長尾幼稚園のよさであり、保護者からも支持されている。そして、教師・保護者・地域が手を携えながら子どもたちを育てている温かい幼稚園である。このような幼稚園のよさを機会や場を捉えて、さらに様々な方法で発信していくとよい。